

感染症

相双地域感染症発生動向調査週報(2025年第16週)

(令和7年4月14日～令和7年4月20日)

令和7年4月24日

定点報告(上段:定点当たり/下段:報告数)、全数報告(報告数)

区分	疾病名	2025年					2024年 合計	2023年 合計
		13週	14週	15週	16週	合計		
定点報告	インフルエンザ	12.33	2.33	2.67	7.33	—	—	—
		74	14	8	22	1,188	1,616	2,660
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	3.67	3.17	1.67	2.67	—	—	—
		22	19	5	8	812	3,622	2,663
	RSウイルス感染症	2.50	2.00	5.00	3.50	—	—	—
		10	8	10	7	61	309	425
	咽頭結膜熱	—	0.50	0.50	1.00	—	—	—
		0	2	1	2	32	337	129
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.50	2.25	1.50	2.00	—	—	—
		6	9	3	4	126	657	237
	感染性胃腸炎	7.75	5.50	6.50	3.50	—	—	—
		31	22	13	7	348	610	988
	水痘	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	2	6	1
	手足口病	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	5	952	129
	伝染性紅斑	0.25	0.5	—	2.00	—	—	—
		1	2	0	4	14	0	8
	突発性発しん	0.50	0.50	—	—	—	—	—
		2	2	0	0	34	182	266
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	19	319	
流行性耳下腺炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	8	13	15	
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	—	1.00	—	—	—	—	—	
	0	1	0	0	1	9	13	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	1.00	—	—	—	
	0	0	0	1	3	1	3	
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	2	16	1	
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
インフルエンザ入院	1.00	—	—	—	—	—	—	
	1	0	0	0	13	19	10	
新型コロナウイルス感染症(入院)	—	—	1.00	—	—	—	—	
	0	0	1	0	20	120	19	
全数報告	レジオネラ症	1	0	0	0	3	3	8
	百日咳	0	0	1	2	4	0	0

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	RSウイルス感染症 と 咽頭結膜熱 と 伝染性紅斑 の 流行 が見られます。 インフルエンザは今後の動向に注意が必要です。
全数把握疾患	百日咳 2名(50代) の報告がありました。

インフルエンザ	相双地域及び県(県内総数)ともに前週と比較して増加しています。 県(県内総数)ではインフルエンザB型の報告が半数以上を占めています。 今シーズンで既に罹患した方でも再び感染することがあるため、引き続き体調管理に留意するとともに、手洗いや定期的な換気等、基本的な感染対策をお願いします。
新型コロナウイルス感染症	相双地域は前週と比較して増加しており、県(県内総数)は前週と比較して横ばいです。 インフルエンザと同様、体調管理や基本的な感染対策をお願いします。
伝染性紅斑	相双地域及び県(県内総数)ともに前週と比較して増加しており、警報は続いています。 伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染症です。感染経路は飛沫感染や接触感染で、約10日の潜伏期間の後、発しんが両頬から体・手・足に拡がります。通常、頬に発しんが出現する7～10日前に風邪様の症状がみられ、この時期にウイルスが最も多く排出されます。発しんの現れる時期にはウイルスの排出量は低下し、感染力もほぼ消失した状態です。妊娠中に感染した場合、胎児水腫や流産を生じる場合があります。 予防には手洗い、マスク着用等の咳対策が必要です。
百日咳	百日咳(全数報告)については、本県で14名報告がありました。本県では全国的にみると低い感染者数で推移しているものの、増加傾向にあります。今後も流行が拡大する可能性があり、感染状況に注意が必要です。 百日咳菌によって引き起こされる、激しい咳を伴う病気です。特に乳児では重症化のおそれがあり、早期のワクチン接種を推奨します。乳児のいる家庭では、保護者を含めた家庭内の感染に注意しましょう。 感染経路は飛沫感染や接触感染とされており、手洗いやマスクの着用など基本的な感染対策が有効です。
急性呼吸器感染症(ARI)	相双地域の定点あたりの報告数は第15週は43.67(県内全体54.23)、第16週は61.00(県内全体74.48)でした。 急性呼吸器感染症(ARI)※が令和7年4月7日から感染症法上の5類感染症に位置付けられ、定点把握の対象となりました。 ※急性呼吸器感染症:急性の上気道炎又は下気道炎を指す病原体による症候群の総称。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス等が含まれる。

(参考・引用)福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2025年第16号